

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業〔市民の学習成果の発表の場提供事業〕

「～桁違いに安いコストで本を出版する「自力出版」のノウハウ提供～」を開催しました。

平成28年2月20日（土）、田中義昭さんを講師に迎え、「～桁違いに安いコストで本を出版する「自力出版」のノウハウ提供～」を開催しました。

田中義昭さんは転勤で高松に来て6年。憧れのカナダに子連れで行った時の素晴らしい思い出を「本という形で記録に残そう」と本を出版した経験をもとに、出版に至るまでのノウハウを教えてくださいました。



まず、「自費出版」と「自力出版」の違いについて。

「自費出版」とは、校正、カバーデザイン等を出版社が担当するため、人件費など1冊当たり1,000円以上のコストがかかる。

「自力出版」とは、印刷（製本）以外は全て自分で行き、完全データで出稿するためコストがかからず、1冊200円程度から可能なので安く出版できる。

出版までのプロセス

- ①プランニング：作品のテーマを決める⇒プランを立てる（出版方法・スケジュール等）
- ②執筆：原稿（Word・紙）を書き、校正できるまで質を上げていく。
- ③校正・デザイン：「完全データ出稿」を目指し、出稿できる状態までブラッシュアップ。
- ④出稿：印刷会社と打合せ。書籍JANコードを取得。ゲラの確認。
- ⑤出版：紙質、印字、発色等最終確認後、印刷・製本。納品を待つ。
- ⑥販売・流通：オンライン書店・一般書店等と交渉し流通につなげる。

「自力出版」に必要なもの

- Word等が利用可能なパソコン⇒原稿の作成、レイアウト、デザイン等印刷会社へ出稿するまでの制作用。
- スマホ・小型パソコン⇒通勤時間等を有効利用して原稿が書ける。
- ビデオカメラ・ICレコーダー等⇒旅行記にはビデオは必須。ナレーションを入れるとさらに有効。ICレコーダーは歩きながらでも原稿が書ける。

その他、旅行記は出版の入門的なものであること。また、最近では、電子書籍やオンデマンド出版という方法もあるが、半永久的に残る紙の本の良さはかえがたいものがあるなど、熱い思いを語ってくださいました。質疑応答の時間も受講した方の熱心な質問がたくさん寄せられ、「自力出版」への関心の高さを表していました。